

## 第 71 回評価監視委員会の開催について

第 71 回一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	2024 年 2 月 22 日（木）14：00～16：00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 (五十音順)	<p>高橋省三（委員長（一般社団法人自動車公正取引協議会 参与 名古屋経済大学 法学部 教授 [元公正取引委員会 近畿中国四国事務所長]））</p> <p>鵜飼 誠（元会計検査院 第 1 局長）</p> <p>斎尾直子（東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系教授）</p> <p>佐藤 淳（東邦監査法人 代表社員、公認会計士）</p>	
当会	<p>建築調査部 高橋 俊一、島田 理久、柴田 洋毅、伊藤 史朗、 徳永 祥樹</p> <p>第一土木調査部 大谷 忠広、加藤 清邦、島野 誠司、立原 充彦</p> <p>調査統括部 柴尾 治、平野 光芳</p> <p>監査審査室 黒澤 昭浩、勝井 治</p>	
審議案件	案件	備考
	(定期調査) 水道用硬質塩化ビニルライ ニング鋼管 [東京]	「建設物価」2023 年 9 月号 661 ペー ジの掲載価格について、調査結果記 録票、調査結果集計表等に基づき、調 査方法、調査プロセス等を説明
	(受託調査) グラウトホール（プレキャスト 用）[新潟県阿賀野市地内]	受託調査について、調査票、調査報告 書等に基づき、調査方法、調査プロセ ス等を説明
委員からの主な意見・質問 それに対する調査会から の回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘 (不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管（東京）</p> <p>○フランジ有無の違いで使用場所が異なるのか。</p> <p>○価格が上昇傾向にあると確認できた場合、どのように対応したのか。</p> <p>○ねじ無しは口径50が、フランジ付きは口径150の使用頻度が高いのか。</p> <p>○調査対象者へのヒアリングにより、価格以外に有益な情報は得られることがあるのか。</p> <p>○メーカー各社はどのような理由で値上げを実施したのか。</p> <p>○値上げの浸透に時間を要した要因は何か。</p>	<p>○プラント向けにはメンテナンスなどを考慮してフランジ付きの使用が多い。</p> <p>○調査頻度、調査対象者を増やして調査を実施した。</p> <p>○ねじ無しは口径50が、フランジ付きは口径150の使用頻度が高い。</p> <p>○需給動向等色々な情報が聞けることもある。</p> <p>○原管であるSGP管、塩化ビニル管の価格、電気代や原油等のエネルギー価格、輸送コストの高騰が理由である。メーカー各社が改定した価格表を問屋等に配付するなどの方式で値上げを実施した。</p> <p>○原管の値動きと必ずしも連動しないことや需給状況等が要因である。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について グラウトホール（プレキャスト用）</p> <p>○「Web 建設物価」に掲載されていない長さ（L）であることから調査依頼があったのか。</p> <p>○空洞や隙間が大きくなった場合、埋めるために使用するのか。</p> <p>○調査対象者として、必ずしも市場占有率の高くないメーカーも選定されている理由は。</p> <p>○グラウト注入はどのようなタイミングで行うのか。施工から、10年以上経過してからも行うことがあるのか。</p> <p>○グラウトホールの直径の大小はどのようにして決定するのか。</p> <p>○「Web 建設物価」に掲載されている長さの規格間格差から類推して、発注者はこの長さ（L）に対する価格を算出できないのか。</p>	<p>○そのように理解している。</p> <p>○空洞発生時にグラウト材を注入して補修するために使用される。グラウトホールの長さ（L）は現場の設計に合わせて決まる。</p> <p>○調査結果の妥当性を高めるため、市場占有率の高/低のみならず、回答価格の信頼度が高いと見込まれるメーカーも選定した。</p> <p>○ボックスカルバート設置後、地盤との間に空洞が確認された場合、グラウトホールからグラウト材を注入する。グラウト材注入後は、グラウトホールは使用不可となる。</p> <p>○国土交通省で標準仕様が定められている。</p> <p>○算出できる可能性はあるが、最終的には発注者側の判断で調査依頼があった。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○次回評価監視委員会は、2024年6月下旬に開催予定。</p>	